



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



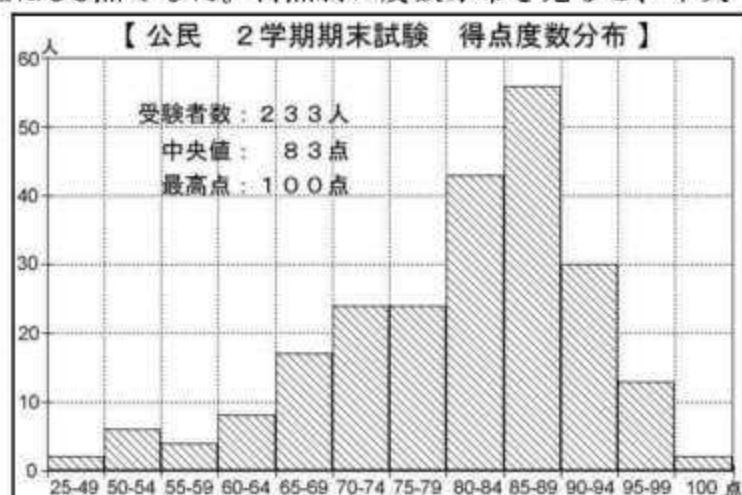
No.36

成長のあとが見える「思考力・判断力」

効率と公正の二つの側面から考えることには課題が残る

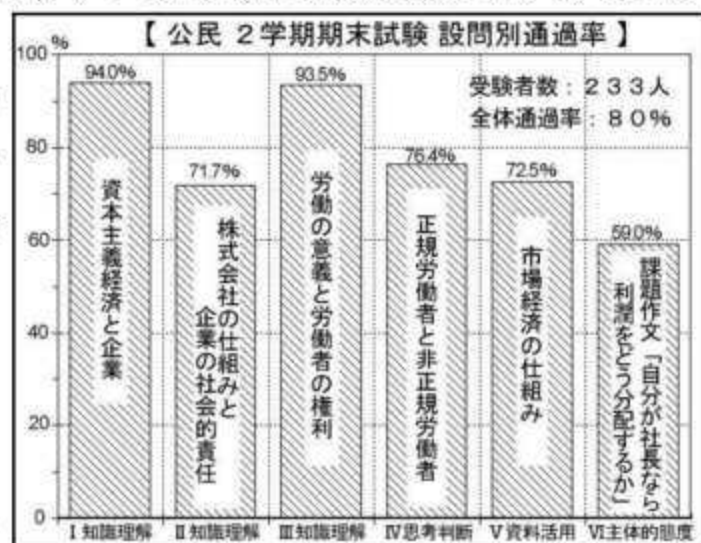
2学期期末試験の得点の中央値は83点でした。得点別に度数分布を見ると、中央値を超える85点以上89点以下の得点者が最も多くなっています。君たちの授業中の様子が現れていると私(倉橋)は思います。

今回の試験では、100点を獲得した人が、学年で2人も現れました。かなり高難度の設問といやらしい罠を仕掛けておきましたが、二人の答えはそれらを見事にクリアーしていました。すごいですね。



今回の試験結果で、特徴的なことは「思考力・判断力」を試すために出題している「会話形式問題」の通過率が高くなっていることです。これまでの試験では、通過率の高いときでも60数%でしたが、今回は76.4%でした。問題の設定上、2問だけは「知識」で解答できるものにしましたが、それよりも、難易度の高い「ふさわしくない文章」を選択する設問の通過率のほうが高い結果となりました。その点を考慮すると、君たちの「思考力や判断力」が高まりつつある傾向を読み取れますので、指導している私もとても嬉しくなります。

一方、課題作文のできは厳しい結果です。今回は、会社の利潤の配分方法を、効率と公正の二側面から検討することを求めました。「作文の本体」は、自分の意見(結論)とその根拠(理由)を説明する文を書くことです。しかし、残念ながら、根拠を示さずに結論だけを書いている人が



多くいます。主体的に調査し、根拠をもとに考える習慣を身につけてください。

今回の期末試験の出題のねらい

- Ⅰは、「資本主義経済と企業」について、日本の大企業が多数の中小企業にささえられていること、グローバル化が産業界全体を変化させていることなどを理解しているかを試した問題でした。94%の通過率でよく理解できていました。
- Ⅱは、「株式会社の仕組みと企業の社会的責任」についての理解を試した問題でした。株主の有限責任について簡単な説明文を書くように求めた小問(6)で、説明文の書けない人が多くいました。また、企業が社会的役割を果たすCSRの説明文についても同様で、書けない人が多くいました。2問とも事前に予告していたのに残念です。
- Ⅲは、「労働の意義と労働者の権利」についての理解を試した問題でした。法律の細かい規定の知識を問うのではなく、制度の趣旨の理解を中心に出題したこともあり、通過率は93.5%と高く現れました。「労働」と書くべきところを「労働」と書いた人がいました。基本的な漢字は確実に書けるように練習し直してください。
- Ⅳは、「正規労働者と非正規労働者の賃金格差」について、グラフの読み取りを中心に試しました。正規労働者と非正規労働者の賃金格差があること、それは労働者を雇う側の企業の都合から生じていること、つまり企業の利益追求優先という効率の面が強く出ている社会事象であることを理解していれば、この設問に、答えることができました。ここで、効率の負の側面を読み取っておくことは、Ⅵの作文を書く際にも大きなポイントになりました。
- Ⅴは、「市場経済の仕組み」についての理解を試した問題でした。市場価格の決まり方を表すグラフ上の「均衡価格」の「均衡」を正しく書けない人が多くいました。また、「需要曲線」と「供給曲線」あるいは、「独占禁止法」の文字を正しく書けない人も多かったことが気になりました。大事な基本用語は、漢字を確実に正しく書けるようにしておいてください。特に、今回は「オ てへん」と「オ けものへん」を厳格に採点しませんでした。が、「オ」と「オ」の違いを確認すると共に、しっかり区別して書けるようにしておいてください。今後は厳格に採点します。
- Ⅵの作文の課題では、1学期に学習した「効率と公正」の二つの観点から、社会事象をとらえることを基盤にして、株式会社の仕組みと労働の意義について総合的に考えることができるかを試しました。「社会問題」のほとんどは、利害対立から起きています。その対立を解消するためには、解決方法を「効率と公正」の観点で考える必要があります。今回の課題でも、会社の利益、株主の利益、労働者(従業員)の利益の三者が対立していることを明確にとらえることが、とても重要になります。ところが、「対立」を明確にして、自分の意見を書けていた作文はほとんどありませんでした。そのため、公正な判断のない、効率の観点だけを強調する作文が多くなりました。残念です。詳細は、次号の「**なんでやねん**」で説明します。